



心研 Voice

2023
winter
—
vol.7

高齢者の「心不全」が増加しています

“危険なサイン”を見逃さないで

日本人の死亡原因でがんに次いで多いのが心臓病ですが、その中で最も多いのが「心不全」です。近年、急速な高齢化などに伴って心不全の患者さまが急増しています。「年のせい」と放置しがちですが、少しでも息切れや動悸、足のむくみなどの危険サインを自覚したら早めの受診を。すぐに治療を開始し、心不全の進行をできるだけ抑える必要があります。

早期発見・早期治療が大切 とくに高血圧は要注意

心不全とは病気の名前ではなく「心臓のポンプとしての機能が低下して、全身にうまく血液が供給できなくなる状態」のこと。早期に発見してきちんと治療をすれば心不全への移行を遅らせることができますが、かなり悪化してから受診する方が多いのが現状です。

主な原因としては、心筋梗塞や狭心症、心臓弁膜症、不整脈、心筋症などの心臓の病気がもとになっていると考えられます。このような心臓の病気やその引き金となる高血圧、糖尿病などをしっかり治療しておくことが重要です。とくに高血圧は要注意。血圧が少し高めで基準値より手前であっても、将来心不全になるリスクはじわじわ上がっています。

自己判断は禁物！

「かくれ心不全」の可能性も

心不全の特徴的な症状としては、息切れ、



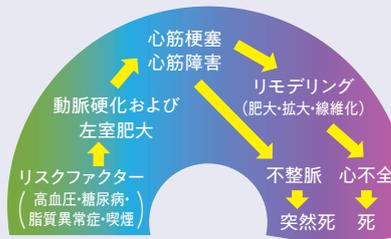
動悸、足のむくみ、疲れやすさなどが挙げられます。これらを自覚していても「年のせい」と放置してしまうと、心臓の状態が急激に悪化してしまうことがあります。こうした「かくれ心不全」の患者さまが増えており、いきなり救急搬送されるケースも珍しくありません。

高齢者の心不全では心臓の収縮機能は保たれていることが多く、こうしたタイプは通常の検査では見つかりにくいという特徴があり、診断が難しい場合もあります。健康診断の項目には入っていませんが、心エコーや血液検査の脳性ナトリウム利尿ペプチド（BNP）測定などで正しい診断が可能です。

最近では治療薬も進歩し、初期の段階で早めに治療を開始すれば症状を改善できるようなっています。気になる症状があれば自己判断をしないで、かかりつけ医や循環器専門医を受診してください。



心不全の発症



高血圧や糖尿病などのリスクファクターが動脈硬化や心肥大を進展させ、心臓病につながります。



院長 上嶋 徳久

心不全の予防は 生活習慣の改善から

心不全を防ぎ、元気に長生きするためには、日々の生活習慣を改善し、その根底にある生活習慣病をコントロールすることに尽きます。左のリストを参考に、食生活や運動習慣を振り返ってみましょう。

自分で気をつけること

- 喫煙・受動喫煙を避ける
- 身体活動を増やす
- 適正飲酒を守る
- あぶら物や揚げ物、間食を控える
- 塩分を控える
- 大豆製品を毎日摂る
- 食物繊維を毎日たっぷり摂る
- 野菜は毎食、果物は毎日摂る
- 魚を毎日摂る
- 適正体重を維持する

もしも具合が悪くなったら…

☎ 03-3408-2151

※急患の方は24時間随時診察いたします(まずは受付が対応し、状況に応じて医師・看護師におつなぎします)。



冠動脈CT検査 画像ができるまで

冠動脈CT検査とは

冠動脈CT検査とは、心臓の筋肉に血液を送っている血管(冠動脈)に狭窄や閉塞などがいないかを調べる検査です。外来受診での検査が可能で検査費用などの負担も少なく、簡便に行えることがこの検査のメリットといえます。

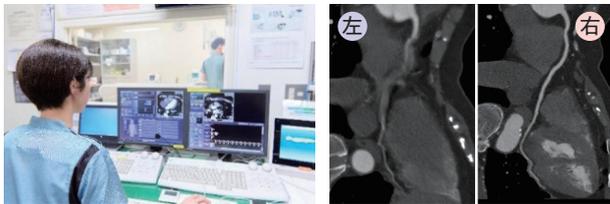


320列ADCT
冠動脈CT検査に非常に
優れた装置

実際の冠動脈CT画像

冠動脈CT検査と心拍数の関係

カメラで動きの速い被写体を撮影するとブレが生じ、きれいな写真を撮ることができませんよね？ 冠動脈も同じです。心臓は絶えず動き続ける臓器なので、ただ撮影するだけではブレのないきれいな写真を撮ることが難しく、せっかく検査をしてもしっかり診断することができません。当院では検査前に心拍数を確認し、必要なら心拍数を落ち着かせるお薬を服用または点滴で投与し、きれいな画像を撮影できるように検査しています。

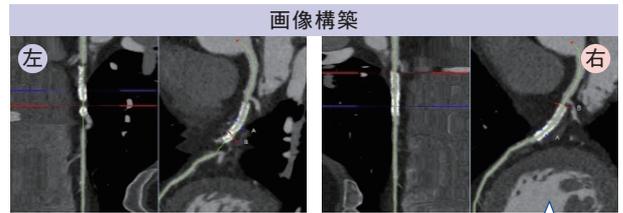


冠動脈CT検査中
きれいな画像を撮影するため、
撮影設定をしっかり行います

画像ブレの比較
左 画像ブレあり 右 画像ブレなし
画像ブレがあると正確な診断
ができません

検査～画像ができるまで

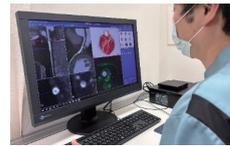
通常のCT検査の場合、撮影後すぐに医師が画像を電子カルテで確認できる状態になりますが、冠動脈CT検査は撮影したデータから、医師が心臓や血管などに異常がないか確認できるように画像を構築しなければなりません。画像構築には専門的な知識と経験が必要です。しっかり検査を行うことも大事ですが、この画像構築こそが冠動脈CT検査の精度に直結する重要な工程なのです。当院の放射線技師は全員がこの技術を有しているため、365日24時間体制で冠動脈CT検査から画像構築まで実施することが可能となっています。



左 画像処理前

右 画像処理後

1本1本、ていねいに
冠動脈を描出して
いきます



きれいな画像を構築中!
「画像まだかなあ」と医師から
プレッシャーがかかることも!

冠動脈CT検査をご希望される患者さまへ

循環器専門病院である当院では、年間1,500件以上の冠動脈CT検査を行っており、医師、看護師、放射線技師全員が豊富な知識と経験を持ち、高いレベルで検査から画像構築までを日々実施しています。緊急性がある病変が見つかった場合には、すぐに主治医に報告できる体制も整っていますので、安心して検査をお受けください。



放射線技師 氷見 孝弘

造影CT検査前 のお願い

造影CT検査で使用するヨード造影剤の安全性は確立されていますが、少なからずお体に負担をかけてしまいます。当院では造影剤使用によるお体への負担軽減や副作用の発生を抑える目的で、検査前の食事・水分制限を行っていません。水分補給はしっかりと検査にお越しください。

スペシャルサイトのご案内

ホームページではさらに
たくさんのお役立ち情報をお
届けしています!



過去の広報誌は
こちらから

<https://www.cvi.or.jp/cvi-magazine/>

心電図異常と
言われたら

心研
コラム

施設
ご紹介

